



# 初の市長懇談会開催される



広袴町内会  
会報第19号

発行日  
平成22年3月1日

発行責任者  
広袴町内会  
夏目義久



## 昨

年末12月20日、真光寺会館において、広袴市長との懇談会が開催され、約50名、当町内会からも15名の方々が参加されました。

市側からは、石阪市長、広聴担当課長、秘書課長が出席されました。

特に市長は野津田出身だけに地元情勢に詳しく、今後、当町内会活動についても何かとご理解いただけるものと期待しています。趣味のバードウォッチングは専らプロ級とのことです。

### ◎市長談話の要旨

「まちびと」や「広報まちだ」等を通じ、市民目線のできるだけ開かれた市政を心がけている。

例えば、後期高齢者医療制度の説明をわかりやすくしたことや、下水道料金の誤徴収を公表したこと等がある。また、特別養護老人ホーム3か所（計400人収容可）の開設や、100人規模の保育所3か所、50人規模の保育所3か所の開設等、福祉にも

力を入れている。

行政に対する注文等があれば、遠慮無く御来庁ください。

### ◎当町内会からの主な要望

① 栗平へ抜けるトンネル開通の見込みを聞きたい

↓川崎市と毎年協議しているが、残念ながら平成26年度までの川崎市側の都市計画に上がっていない。継続協議する。

② 鶴川街道の若葉台へ抜ける峠、七曲がり部分の整備について

↓峠部分は川崎市側になり、これも計画に上がっていない。継続協議する。

③ 広袴公園の拡張をお願いしたい

↓公園緑地課に調査させる。

④ 真光寺川上流の水質浄化と調整池の定期的浚渫（せうけん）をお願いしたい

↓環境保全課および公園緑地課に調査させる。

【会長・夏目義久】



# 秋の作品展示会とフリーマーケット開催

参

会者の方から「広袴は芸術家の街ですか？」と問われる程の作品が並んだ町内会作品展示会も今年で第三回目を迎えました。今や夏の盆踊り大会に次ぐ欠かせない広袴の年中行事に育ちましたことをご協力頂いた出展者の皆様や、準備に忙しい思いをして下さった文化部の方々に感謝と共に喜び申し上げます。



今年は山路文化部長の心入れにより美味しいコーヒーマーケットもあり、和気藹々(わきあひげ)の内に一段と和やかな会場となりました。毎年毎年、出展者が増え続け世話役が悲鳴を上げるように多くの皆様方のご協力(ご出展)を期待しています。



さて、初めて試みしました「フリーマーケット」は集客力を期待して展示会と同日開催として有志の方々と実行してみました。今年の傾向をご紹介しますと、子供向けの衣類が多く「お孫さんに」と懐のゆるんだ「おばあちゃん」も沢山見受けられました。

不良大人? 「渡辺淳一」の本も並んでいました。

可愛い高校生のお嬢さんが「一万六千円も売れました」と喜んでいたので印象的でした。

会場で「来年もまた是非」という声があちこちで聞かれ、初の試みとしてはま



ずまずのスタートだったかなと自負しています。特記すべきは新年号に夏目会長からご紹介ありましたように、フリマの真中に突如として朝採りの新鮮な野菜が並んだことです。可愛らしい売り子の呼び込みで瞬く間に完売となりましたことは新年号でご紹介の通りです。

このことが切っ掛けとなって地元の多くの生産者の方々のご賛同を得て、近い将来「広袴朝市」が恒例となりますよう期待しております。

以上二つの行事とも就任時に町づくりのコンセプトとして夏目会長が示された五つの柱に沿ったもので強い柱に育てていきたいものです。

今後とも町内会の一人でも多くの方のご協力を得て全ての行事を更に充実したものにしていきたいと思えます。

【副会長・田辺晋一】

開催されました  
夜空を照らす！

## どんど焼き

### 毎

年恒例の「どんど焼き」が、1月14日に、冷え込みもあまりなく、強い風もない絶好の条件の下、広袴公園で多くの人たちが参加して行われました。

これに先立ち、10日の日曜日に、子ども会が中心になって、町内会の各家庭をまわり、門松や注連飾しめ飾り等を集め、どんどの塔は作られました。



その間、雨の日や強風の日があり、どんどの塔がずぶ濡れになったり、倒れたりしないかと心配でしたが、四本の転倒防止の綱が守ってくれました。雨には濡れましたが、炎がメラメラと燃え上がらず、ちょうど良いお湿りでした。

当日、西空に真っ赤な太陽が沈みかける16時30分、12歳で戌寅生まれの小学生の手によって、火入れが行われました。瞬く間に、どんどの塔は炎の塊となつて、夜空を照らしました。公園反対側の高台

のベンチから見下ろすと、どんど焼きの火柱が貯水池の水面に映し出され、僅かな時間でしたが、逆さどんど焼きを見ることが出来ました。

幼児からお年寄りまで、多くの町内会の皆さんが出かけてきて、手に手にお団子やお餅を刺した棒を持ち、焼きごころとなる火勢の弱まりを待っていました。しかし、どんどの塔の中には、太い竹の筒が何本も入れてあるため、時折、「どーん」と破裂する音が響き、その音が鳴り止まないと危険なため、団子焼きは出来ませんでした。四十分ほどで、やっと安全の確認が出来たため、焼き方をスタートしました。ところが、あまりにも人出が多かったため、焼き場のスペースが不足し、急遽、どんどの塔の周りの外に、即席の団子焼き場を作って対応しました。

どんど焼きは、以前は日本全国で広く見られていた習俗でしたが、最近は火災予防から、東京近辺ではほとんどの地で禁止されており、貴重な存在となつています。その呼び名も地方によって異なり、



「おんべ焼き」、「さいと焼き」、「歳の神」、「賽の神」、「寒の神まつり」、「どんと祭」、「ほっけんぎょう」、「左義長」等々沢山あるようです。この行事は、お盆に祖先の霊を迎え、送り出すときに「送り火」と言つて火を燃やす仏教的な民間習俗がありますが、それと混合したものと考えられているという説があります。

いづれにしても、年の瀬に門松や注連飾りをして、「歳の神」を迎え、新年には書初めをして、それらを燃やすことによつて、炎とともに見送り、豊作と家族の無病息災を祈るといふことのようにです。



近年では、子供たちの祭りに様変わりしての行事となりましたが、子供たちの大きな声を聞くと、活気を感じます。次世代を担う子供たちに大きな思い出のページとして残してあげたいと思います。

広袴地域のどんど焼きが、これからも継続でき、子供たちの元気な声がいままで聞こえる環境を守ってあげなければと、痛切に感じました。

【若井定利】

# 密着リポート・せせらぎ緑道界わいの半日 クリーンアップデイ秋

## 紅

葉うるわし11月29日、クリーンアップが行われた。今回「せせらぎ緑道では子供が大ぜい参加している」と聞き、さっそく、訪ねた。



◇朝9時。掃除開始の1時間前、既に作業を始めている人に出会った。71歳の大嶋さんだ。「広袴に越してきたのは、この緑道がめあてだった」とも語る大嶋さん。今では、ここで知り合った仲間と共に月に二日は川の掃除をされている。



◇10時少し前。9組B班のエリアでは、高橋班長の元に班員たちが集まってくる。番号の入った袋を受け取り、それぞれが掃除に向かう。



お母さんの落ち葉拾いを手伝う、5歳のひなちゃん。おじいちゃん、おばあちゃんと作業をする、小3のともちゃん。  
ちよつと寒い朝だけど、体を動かせば温まってくる。みんな頑張つて、活動開始だ!



◇さらに上流へ行くと、ずいぶん細くなった川の両脇に子供たちの姿を発見! 11組B班のメンバーである。3歳児から、園児、小学生の子供たち。それぞれが自分の道具を手に持ち、なんだか楽しそう。



ときくん、まなちゃん、けんごくん、あすかちゃん、りさとちゃん、ことみちゃん、街をきれいにしてくれてありがとう。

◇そこで意外なシーンを目撃! お母さん方が自己紹介をしているのだ。ご近所さんなのになぜ?



聞くと、ことみちゃんのお母さん(広袴在4年)は子どもが幼稚園に通っていたため、小学校の子供を持つ親との接点はなかなかなかったのだとか。「勇気を出して参加してよかった」とは奥様の言。「い



や、私たちこそ、お友達ができてよかった」など、すっかりうちとけられていたよう。



◇子供たちの参加は、ほんの1時間ほど。「ごころうさまでした」と、ちよつとしたごほうびもふるまわれていた。子供達はあめを口に入れるやいなや、外遊びを始める。道では車や通行者に、空き地では落とし穴に気をつけながら、走り回る子供たち。春や夏はザリガニ捕りでにぎわうせせらぎ緑道。そこには今日も、元気で優しい子どもたちの姿があった。



◇「クリーンアップデイの一番の目的は親ほくだと考えています」と、環境衛生部の三浦部長は語る。この広袴の地に、縁あって住むもの同士、年に二回の、「婚活」ならぬ、ご近所づくりの「近活」の場をうまく活用してほしいとも。

次回のクリーンアップデイはおそらく夏。今度は暑いですが重い腰をあげて外に出てみませんか? すてきな出会いがあるかもしれません。【篠田道秀】

# 全国が注目！真光寺の挑戦

## タ

「ご存知ですか？リサイクル広場」  
ウニニュースなどでご存じの方もいるかも知れないが、今、真光寺で全国の関係者が注目する取り組みが始まっている。昨年9月にオープンした「リサイクル広場・真光寺」である。「広袴の方もどうぞご利用を」と島田代表（真光寺三丁目町内会長）に誘われ、さっそくおじゃました。



◇それは、鶴川街道沿いにあった。ちょうどワークマンの反対側。白地に赤文字の旗とかわいらしい花壇が目印である。町内会館の広場にテントを常設、毎週日曜の10～14時にはボランティア約20人が当番で運営にあたっている。

◇どんな仕組みなのか？  
手慣れた感じの親子が来た。色々な物が入った袋から、カゴの表示に合わせて、ビンやカン、そしてペットボトルのふたやパン袋の留め具などをそれぞれのカゴに入れていく。ゴミ出しの最後の段階で、完全な分別が行なえる仕組みだ。

◇子どもの教育やしつけ、物を大切にすることを育てる機会になるだけではない。1回行くと、スタンプがもらえる。3つ集まると、景品がもらえる。



町田市制50周年記念トレットパークか、小野路の剪定枝資源化センターで作られるチップたい肥か、い



ずれかがもらえるのだ。古新聞や雑誌もOK。廃食用油はもちろん、使わなくなったビデオテープも、家庭金物も、陶磁器やガラスは破片でもOK。そのまま使えるものは、くるくるコーナーで「出物」として置かれる。きれいな鉢や梅干し壺や湯飲み、植木鉢、ビールグラスなど、「値段はついていないが、気持ち分を募金箱に入っていただければOK」とのこと。

◇「全国が！っておおげさな」と言われるあなた。  
実は、「リサイクル広場」の第一号は徳島県上勝町。葉っぱビジネスで有名な人口二千人の山村は、ゴミを8割減量させた事で世界的にも有名だ。町は、「ゼロ・ウェイスト」という脱焼却・脱埋立て主義を宣言。その施策の一つがリサイクル広場だったのだ。  
今、町田市は同じくゼロ・ウェイスト宣言を目指している。人口40万規模の自治体としては日本

初！となる宣言を出せるかどうか、それは「住民パワーでゴミの減量がどの程度可能か」にもよる。◇広場はどんどん進化している。11月には「カブト虫の家」が誕生した。廃ぼた木



「里山のサイクルに無駄はない」ということも伝えていきたいと思うだ。

◇さてわれわれ、広袴の住人にお手伝いできる事があるかとたずねると、島田会長は語る。「ゴミがたくさんあろうが、なかるうが、一度、お越しください。見学でも、出物探しでもOK。おもしろいこと、いろんな提案、大歓迎です！」と。

◇クリーンアップを一回り大きくしたような試み。私もたまに顔を出します。皆様もぜひ。

【篠田道秀】



## 広袴国際交流会

### 広

袴に国際交流会が発足しました。4丁目に住む佐々木、そして真光寺に居を構える豪州出身のクリスティーナが中心となり、広袴及びその近辺に居住される外国籍の方々との交流を図ろうという趣旨です。



去る12月26日には、参加者がそれぞれ食物を持ち込んでの、所謂、ポットラックパーティを広袴会館のホールを借用して行いました。参加した方々は、国籍は、日本(当然)、英国、米国、フランス、豪州、ブルガリア、メキシコ、コロンビアと、国際色豊かな交流パーティが実現し(約30人参加)、英語・日本語・スペイン語があちらこちらで行き交っておりまして。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
 発起人の一人であるクリスティーナのご挨拶、夏目町内会長の流暢な英語でのご挨拶、佐々木のスペイン語での挨拶などもありましたが、肩に力が入らない自由な雰囲気での約4時間にわたるパーティは、素晴らしいひと時でした。食物もスペインパエジヤ、おにぎり、ピザ、サラダ、美味なデザート、美味しい手作りお菓子、果物、を皆それぞれ持ち寄り、餃子を準備し、熱い餃子を食べてもらおうと台所で張り切ってくれたご婦人もおられました。英語は喋らずとも、カラオケセットをアレンジしてくれた町内会の男性の方の親切にも感謝でした。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
 我々の仲間の外国籍の方の中には、我々の大切な神社である神明社の清掃作業に黙々と参加し、更には大事なお祭りでもあるお神輿担ぎにも参加してくれている方もおります。この雰囲気も継続させこそすれ、断つ事はあってはなりません。その意味でも、更に交流を深耕させることは大事であると思っております。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
 町づくりは、そこに居住する方々の思いを如何に浮かび上がらせるかです。この広袴国際交流会も、発足したばかりです。皆様の益々のご支援と、近くにお住まいになる外国籍の方をご存知ならば、ご紹介方々、ご一緒に参加していただくことを願っております。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
 交流会詳細は、

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
 ・クリスティーナ (英語) 090-8559-4004  
 ・佐々木 (英語、スペイン語) 080-5378-1315  
 にご連絡下さい。  
 【佐々木誠之介】



# 歳末防犯防災パトロール

カ  
ツチ！カッチ！  
「火の用心！ マッチ一本火事のもと！」

カッチ！カッチ！  
拍子木の音も勢いよく皆様に届いた事とお察しいたします。

◆ ◆ ◆  
恒例の広袴町内歳末防犯防災パトロールが12月29日と30日の2日間、午後9時から約1時間にわたり行われました。

◆ ◆ ◆  
町内会の全16組とフレッシュタウン鶴川含めた地域を4地区に分けそれぞれの地区を4〜5組でパトロールして頂きました。パトロールを行う時に町内の環境についてのチェックをして頂きました。街路灯の球切れ、暗い場所、危険な場所の有無、廃棄物の有無、等々、その結果を検討し必要に応じて、町田市防災安全課、道路管理課に修理、新設依頼をいたします。今回のパトロールにて指摘された内容は下記です。

- \*街路灯の球切れ……………4か所
- \*放置された自転車、バイク……………4台
- \*街路灯の新規設置要請……………2か所

◆ ◆ ◆  
今年の広袴町内会のスローガンである、「町田で一番私の住む町広袴」の実現に町内会の皆様のご協力が必要です、犯罪上、安全上或いは環境上気にな

る事とか、直したい事等がありましたら、町内会役員、各部の部長等に御遠慮なくお知らせ下さい。

◆ ◆ ◆  
町内のパトロールは2日間にわたり、出席された方は全員で約70名。終了後、簡単な懇親会を行いました、皆様楽しい時間を過ごされたと感じました。なお、消防本部の方からは視察と激励をいただき、また、消防団および消防後援会の方々には、毎年のことながら別途巡回するなどご協力をいただきました。

◆ ◆ ◆  
3月初めに、真光寺駐在さんの嘉茂巡查をお招きして、防犯講習会を予定しております。多数の方々のご出席を期待いたします。

【防災防犯交通部・安藤】

## いきなりWANTED! 不要な物置ありませんか

◆ ◆ ◆  
今、鶴川第二小学校のビオトーププロジェクトでは「屋外の物置」として使える倉庫を探しています。

◆ ◆ ◆  
もし、無料で提供いただける物件をご存知の方は、鶴二小の井上副校長か、5A班の篠田までご連絡いただければ、日程を調整させていただいたうえで、取りに伺います。

◆ ◆ ◆  
当プロジェクトは、2004年、ちょうど、鶴川二小創立四十周年の年に、「子供たちが描いた理想の校庭像を実現しよう」と始まりました。当時の中村雅子校長が保護者に呼び掛け、発足した二小おやじ

の会と共に、毎月、週末を利用して例会を開催。かぶとむし園やほたる池、野鳥の森を整備してきました。今年度は、全国学校ビオトープコンクール2009において「銀賞」をいただくなど、そこそこの実績と成果はおさめているものの、賞金がいただけたり、スポンサーがいたりするわけでもなく、ボランティアアベースで進めているのが実情です。

◆ ◆ ◆  
今までは、校舎裏のスペースにあった倉庫を活用していたのですが、児童数増による校舎の建て増しや耐震補強のための改築などの影響で、既存のものが使えなくなっていました。保護者へのお便りの中で、同様の募集もしてみたのですが、出物情報はありませんでした。今回、取材させていただいたリサイクル広場・真光寺の島田代表に相談したら、「地域の広報を使ってみたら？うちの倉庫はそれでゲットしたよ」と。ということ、ここに、募集記事を出させていたかどうかと思いましたが、倉庫の中に入れるものは、スコップや水槽、そして、クワガタやカブトムシの幼虫などなど。ですので、新しいものである必要はありません。雨、風がしのげれば十分です。なんなら、カギがかからなくともOK。心当たりがございましたら、ご一報ください。

◆ ◆ ◆  
そのほか、リヤカーや一輪車など使えるような道具、古い板や材木なども募集しています。経費はかけず、出物を活用するという、設立以来の精神は健在。何か情報があれば、お声かけいただけると嬉しいですよ。メールでのご連絡は、kabutoen@gmail.comでお願いたします。

【篠田道秀】

# お知らせ 広袴中央バス停留所の移動

**本** 年1月18日から、広袴中央のバス停留所（下り、真光寺公園行き）の場所が、信号付き横断歩道の手前から先へ移動されました。長年、当町内会の課題でしたが、関係者のご協力と、小田急バスさんのご配慮により実現したものです。交通安全確保のため、鶴川台方面からご利用される方は信号を遵守し、横断歩道を渡るようにしていただきますようお願いいたします。  
【広報部】

# お知らせ 投稿募集はじめました

**広** 袴便りでは読者参加型の紙面をめざして、「みんなの広場」と題し、皆さんからの投稿をお待ちしています。「タイトル・お名前（ペンネーム）を含めて600字以内」で、日々の雑感などご自由にお寄せください。

**投稿の受付** 次号へ切：4月20日  
受付先：広袴会館の郵便受け

※掲載の採用については広報部に一任ください。なお、掲載が決定した際も、紙面の都合上、文章の一部を改変させていただきます。



## 最近嬉しかったこと

最近、乗り物に乗ると席を譲られ、私のことかと戸惑うことがある。またゴルフも歩いてラウンドするし、時々長津田から歩いて帰る時もある位で、場合によっては後期高齢者とお見かけする人には席を譲ることもあるからだ。

先日、近所の友人ご夫妻と新宿まで電車に乗った。雑談をしていると、子供を座らせていた若い奥さんが、子供を立たせて「どうぞ」という。とりあえずお礼を述べたうえで丁寧に断りましたが、「子供の教育上、日ごろから心がけているので」とのこと。

私は大声で「ありがとう」と言い、「今日一日が楽しく過ごせます」と付け加えた。何とも心豊かな一日の始まりだった。

日ごろ若い人から席を譲られても、できるだけお断りしているが、譲る人は断って断られたらどうしようかとかかなり思い悩み、また、何となくテレながら「どうぞ」という雰囲気がある。

私はあえて周りに聞こえるように「あなたは偉い。今私は結構ですが、いつもお年寄りには譲ってあげて下さい」と、いうことにしている。断った相手がバツの悪い思いをすることのないようにと思うことと、こういう親切な若者がいることを周りの人にも知ってもらいたいからだ。また、満員電車で皆がイライラしている中でも、何となく周りに和やかな雰囲気広がって行き、とげとげしい雰囲気が多少とも和らぐからだ。

【パチリ】

広報部長 猪原伸彦  
副部長 吉川佳助  
編集人 能勢洋也 加倉井弘年  
篠田道秀 若井定利  
大倉ナミ子 幡野仁美  
五味 健 丸山裕二  
佐保文章